

吉野復興大臣宮城県訪問ぶら下がり会見録

(平成29年5月27日(土) 16:55～17:05 於) 山元町こどもセンター)

1. 発言要旨

今日は最初に塩竈市に行ってまいりました。塩竈市では水野水産という練製品工場を見てきたんですけども、ここは震度5になると工場が全部止まるような、本当に防災について頑張っているところでした。従業員の命を守り、そして、津波から1か月半で工場を再開しました。塩釜港のすぐ脇にありまして、津波をもろにかぶったところなんですけれども、事業再開が1か月半というのは、物すごい頑張ったなど。いわゆる機械屋さんとか、多くの方々が協力してくれたんだなどという、そういう意味の日ごろの付き合いというのも大事だったんだなど、今、そんな感じをしてまいりました。販路の拡大も全国のトップ30の揚げ物練製品の売上のランクで、3種類の商品がランクしているという本当に素晴らしいところを見てまいりました。

次に、岩沼市に行ってまいりました。千年希望の丘植樹祭に参加し、ここではもう今年で5回になる植林をしてまいりました。ここは災害がれき、これは知らない人にとってはがれきなんです。でも、自分にとってはある意味、宝物です。そういう思いを中に入れて、そして覆土して、そこを森にしようという、自分の宝物がこの丘の真ん中にあるんだという、そういう思いでつくられたというふうに聞いております。私も被災者ですので、その思いは本当にわかるつもりでございます。全部で30万本の予定であり、今まで25万本が植えられ、今日は3万本の予定で、3,000人集まりましたから、私も植林してきましたが、1人10本の苗を植えれば3万本です。あと2万本、残り2万本でございますので、30万本の、それで完成という形で、全国のモデルになるような、そんな防潮堤を見てまいりました。

次に、亘理町に行ってまいりました。ここはかなり復興が進んでいる町でございまして、住まいや圃場整備が進んで、イチゴの生産は震災前の約8割、また、隣が荒浜漁港なので、水揚げが2倍に増えたというお話も伺ってまいりました。そして、末家焼(ばっけやき)という、今まで亘理伊達藩の最初の御先祖様が焼き手を備前から連れてきて、焼き物を焼いていたということなんですけれども、それがずっと途絶えておりました。これを加藤さん御夫妻が復活をして、そして、ずっと守ってきたんですけども、津波で被災されてしましまして、もう続けられないという、本当にあきらめの気持ちがあったんですけども、周りから頑張れ、そして、政府がやっているグループ補助金等々、本当にそれを使って、今、こうして再

建されています。それから、末家焼の里計画という一つの提言書をこの加藤さん御夫妻が出しています。それは復興庁の「新しい東北」ビジネスコンテストでも、野村証券の賞を受けるとか、復興庁でも優秀賞を出しておりますので、それらを亘理町がきちんと末家焼の里プロジェクトという形で我々の方に提言をしていただければ、我々も優秀なプロジェクト計画でございますので、御支援をしていきたいというふうに思っております。

最後に、ここ山元町にやってまいりました。これだけのすばらしいこどもセンター、そして学校、向こうは中央公園、これ一体となって、子どもの教育、子育ての支援をしております。ここに町長さんもおられますけれども、私がびっくりしたのは、山元町の子どもたちだけでなく、隣の町、その隣の町、どこの子どもたちでもここで受け入れて、ここを本当にすみかとしてというか、そういう子育てのセンターとして、若いお父さん、お母さん方にも活用していただき、そういう意味では本当に子ども・子育てを軸とした、すばらしいコンパクトシティができております。また、分譲も200区画以上ございましたけれども、たった2区画しか残りがなく、全部売れたと。全部売れたということは、この山元町に住もうという、そういうことでございますので、本当にここまで6年間の間に御苦勞をかけた町長さんに敬意を表したいと思います。

以上です。

2. 質疑応答

(問) 今回、改めて視察をして、こういった課題が見つかったのでしょうか。あと、それに対してこういうふうにアプローチできるんじゃないかというのがあったらお願いします。

(答) それぞれ、町によって進捗度合いが違います。でも、いくら進んでいるところであっても、まだ100%はっておりませんので、課題が必ずあります。

そして、現場に来なければ課題を見つけることはできません。そしてまた、現場に来なければ、その課題を解決する施策、これも現場にありますので、そういう意味で、私は任命以来、昨日で1か月になりますけれども、精力的に現場を見ておるところです。

(問) 具体的な課題というのを聞いたかったですけれども、具体的に言うと、例えば水産業ではこうだとか、こういう町ではこうだという、もう少し具体的に教えてください。

(答) 例えば水産業では、今日の水野水産さんのところは別なんですけれども、全体的にハード面の工場、水産加工業の工場はできました。けれども、やはり販路拡大、これがなかなか進まないということなんです。そういう意味では、ハードは終わったけれども、ソフ

トの面、そこに支援をしていかなければならないというのが、岩手、宮城を見てきた感じでございます。

私の出身の福島は、これまた風評被害がありますので、これはまた別な形で支援をしていかなければならないと思っていますけれども、具体的に言うと、水産業ではそんな感じをいたしました。

(問) 山元町の齋藤町長から、人口減少や、あと町職員が不足しているという課題が説明されたと思いますけれども、その点について国としてどんな支援ができるのかというところをお聞かせください。

(答) 6月3日に、東京都庁で岩手県、宮城県、福島県の任期付職員採用の合同説明会をやります。昨年はかなりの方々が応募されて、採用もしたわけですが、今年もそうやって都会から任期付職員の方々を採用して、それを県でも雇うし、各市町村に配分するところもやっておりますので、そんな制度を活用して、本当に山元町、町長さんからマンパワーの不足を要請されましたので、きちんと宮城県とも相談しながら、不十分だとは思いますが、ゼロよりはましだと思いますので、努力をしていきたいと思っています。

(以 上)